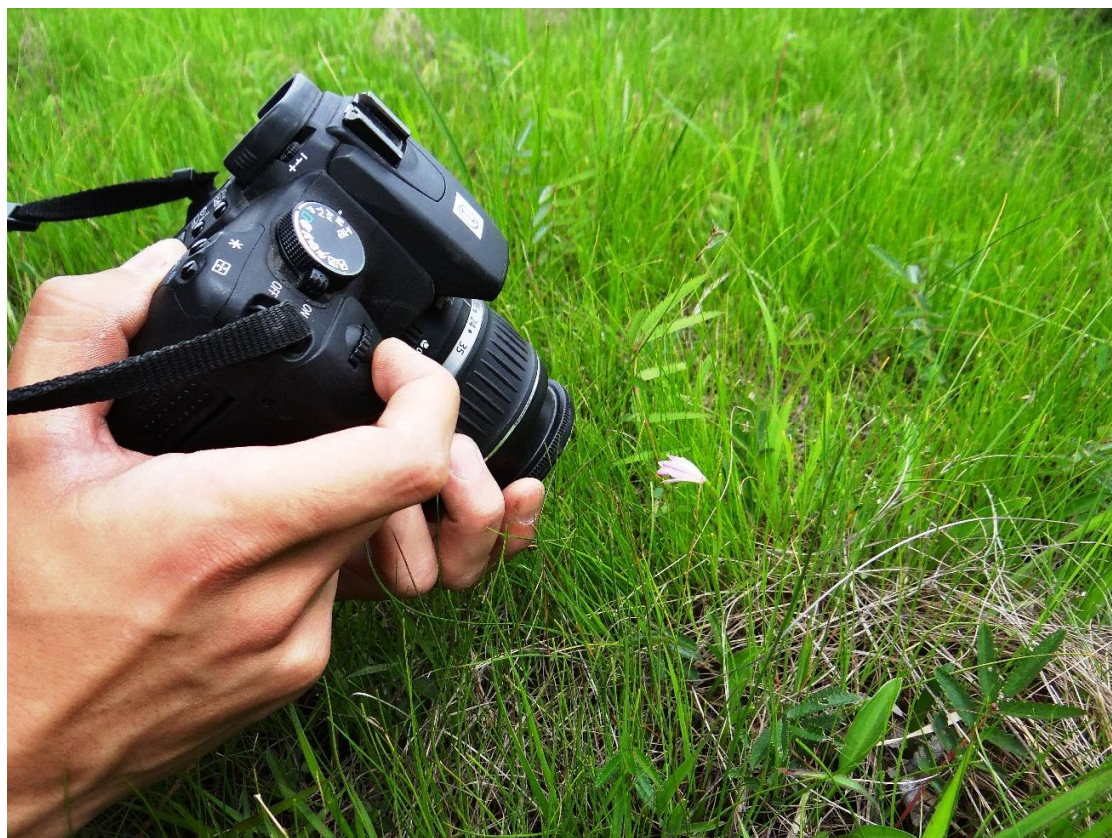




エコアクション21
認証・登録番号 0003337

環境活動レポート 2014

〔対象期間：2013年4月1日～2014年3月31日〕



希少植物巡視活動のひとつコマ（花はトキソウ）



九州林産株式会社

発行日：2014年6月13日

目 次

1	ご挨拶	1
2	会社概要	1
3	環境経営の推進	
	(1) 環境方針	2
	(2) 推進体制	2
	(3) 環境マネジメントサイクル	3
	(4) 役割・責任・権限	3
	(5) 環境目標、2013年度実績、中期目標（全社共通項目）	4
	(6) 2013年度実績の主な取組み、評価・対策	5
	(7) マテリアルバランス	7
	(8) 環境会計	7
4	森林管理事業を通じた生物多様性への取組み	
	(1) これまでの生物多様性の取組み	8
	(2) 2013年度の取組み	9
5	2014年度目標及び活動計画	11
6	環境関連法規等の遵守状況	12
7	代表者による全体評価と見直しの結果	13
8	その他環境関連活動	
	(1) オフィスにおける日常的な取組み	13
	(2) 緑を通じた地域社会への貢献	13
	(3) 自然環境の保全	13
	(4) 地域に根ざした環境活動の展開	14
	(5) 社内環境教育の展開	14

1 ご挨拶

「自然を守り、緑豊かな環境づくりを通して、社会に貢献します。」

当社は、大分県じゅう地域を中心とした九州電力社有林（水源涵養林 4,447ha）の育成管理と自然環境保全を目的に事業を開始し、今年で創業 65 年を迎えます。

現在は、造園工事や緑化工事に広く取り組むとともに、官公庁が所管する公園・農園の指定管理者も手掛け、自然を通して地域のみなさまと協働で、緑豊かな地域・社会づくりに貢献できるよう、日々努めております。

環境経営の一規範と位置付け導入した E A 2 1 も、全社認証後 5 年が経過し、今では、オフィス・工場における日常的な環境負荷低減への取り組みにおいて、従業員一人ひとりが新たな改善領域を見出すなど、自ら考え行動する企業風土の形成に大きく貢献してきました。

一方、当社を取り巻く経営環境は、東日本大震災以降激変しました。環境に対する社会要請も高度化・多様化し、「われわれの事業とは何か」をこれまで以上に問い直すことが不可避となっています。

こうした中、オフィス・工場における環境負荷低減への取り組みの維持・向上は“変えてはならない基盤”と捉えつつ、「緑豊かな環境づくりを通して社会に貢献する」という当社企業理念の実現に向け、森林管理・緑化など事業そのものにおける社会への価値提供の中で、E A 2 1 とどう関わっていくのかについても改めて考えるべき時機が来ていると認識しています。

今回、審査人のご助言にもありましたが、当社事業と密接に関連する「生物多様性への取り組み」について、新たな展開への糸口を探ってみることにしました。

直ちに答えが出るものではありませんが、環境をテーマに事業展開を行なう当社経営と E A 2 1 に基づく取り組みとの一体化を目指し、環境活動を推進してまいります。

2014 年 6 月
代表取締役社長 長 宣也

2 会社概要

■ 名称・代表者
九州林産株式会社 代表取締役社長 長 宣也

■ 所在地
本 店：福岡県福岡市南区野間 3 丁目 7 番 20 号
事業所：九州 7 県に 12 事業所

■ 主な事業内容

- 九州電力の水源涵養林管理事業
- 土木工事、建築工事、造園工事、とび・土工工事の企画、設計、施工、監理及びコンサルティングに関する事業

■ 環境管理責任者及び担当者連絡先
責任者：総務部経営企画 G 長 三木 孔
担当者：総務部経営企画 G 藤木 渉
T E L：092-562-3014
U R L：http://www.q-rin.co.jp

■ 事業の規模（2014 年 3 月 31 日現在）

	本店	林業部	事業所 (11ヶ所)	合計
従業員数 (人)	37	26	40	103
のべ床面積 (㎡)	1,894.9	2,980.3	1,048.2	5,923.4



3 環境経営の推進

(1) 環境方針

【基本理念】

九州林産株式会社は、「自然を守り、緑豊かな環境づくり」という企業理念のもと、すべての事業活動において環境保全意識の重要性を認識し、豊かな社会とより良い地球環境の実現を目指します。

【基本方針】

(地球環境問題への取組み)

- 1 環境保全に関わる法関連規制の遵守により、社会的責任を遂行します。

(循環型社会形成への取組み)

- 2 循環型社会の形成を目指して、節電、節水などの省資源・省エネルギー化、切捨間伐材などの未活用資源の有効利用、廃棄物の再資源化などに取組み、環境負荷の低減に努めます。

(地球環境の保全)

- 3 森林管理事業、緑化事業、住宅事業などを通じて、自然の恵みを享受できる持続可能な森林の保全や、緑がもたらす安らぎの都市空間などを創出して、自然豊かな社会の構築に貢献します。

(社会との協調)

- 4 環境情報を積極的に公開し、社会とのコミュニケーションを図ります。

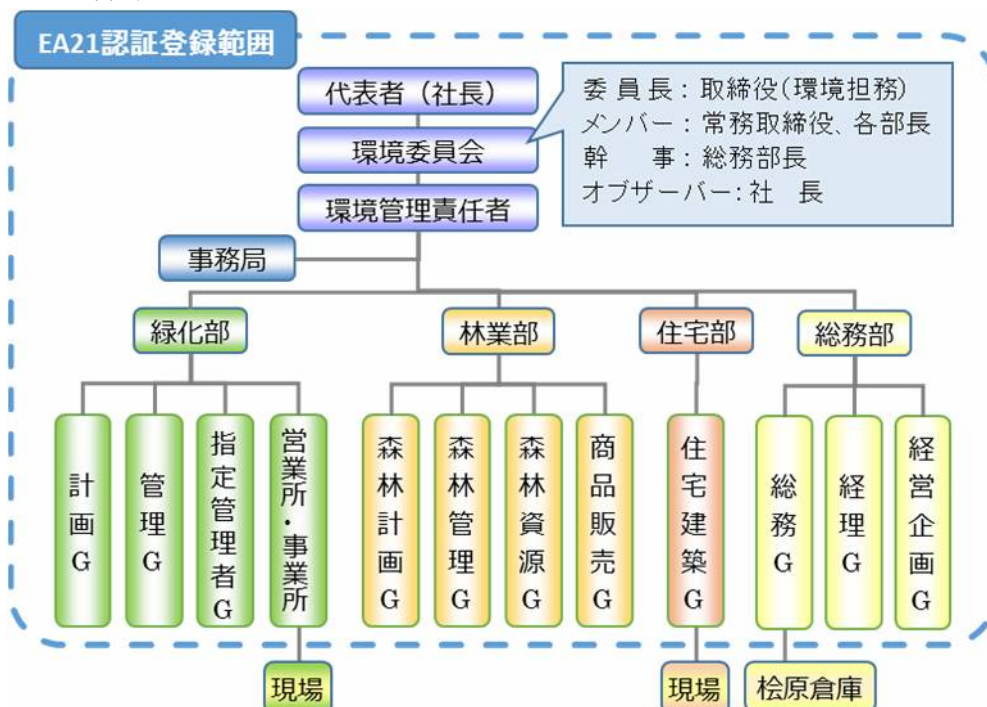
(環境管理の推進)

- 5 環境方針、環境目標、環境活動計画を全社員に周知します。

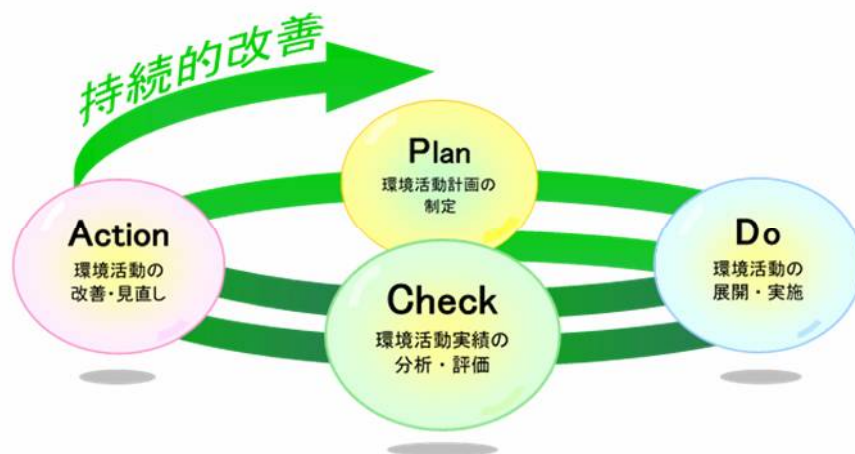
制定日：2007年12月14日

改定日：2009年11月10日

(2) 推進体制



(3) 環境マネジメントサイクル



(4) 役割・責任・権限

	内 容
代表者 (社長)	<ol style="list-style-type: none"> ① 当社の環境経営の最高責任者 ② 環境管理責任者及び環境委員長の任命並びに環境委員会の設置 ③ 環境方針の制定・改定及び全従業員への周知 ④ 環境目標・環境活動計画の承認 ⑤ 管理に必要な資源（人・もの・金）の準備 ⑥ 環境活動レポートの承認 ⑦ 代表者による全体の取組状況の評価と見直しの実施
環境委員会	<ol style="list-style-type: none"> ① 環境活動に関する基本方針・行動計画の審議 ② 環境活動実績の評価・見直し ③ その他関連事項の審議
環境管理責任者 (経営企画G長)	<ol style="list-style-type: none"> ① 環境経営システムの構築・運用 ② 環境経営マニュアルの制定・改定 ③ 実施体制の制定・改定 ④ 全社における環境目標・環境活動計画の策定 ⑤ 全社における環境目標の達成状況及び環境活動計画実施状況の確認・評価 ⑥ 全社における問題点の是正処置及び予防処置の確認・実施 ⑦ 全社における環境関連法規等の取りまとめ・更新及び遵守状況の確認 ⑧ 環境教育・訓練の計画 ⑨ 外部からの苦情等の確認及び関連各所への周知 ⑩ 環境活動実施結果の代表者への報告 ⑪ 環境活動レポートの作成
各 所	<ol style="list-style-type: none"> ① 各所における環境目標・環境活動計画の策定 ② 各所における環境目標の達成状況及び環境活動計画実施状況の確認・評価 ③ 各所における問題点の是正処置及び予防処置の確認・実施 ④ 各所における環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況のチェックの実施 ⑤ 緊急事態への準備及び対応 ⑥ 各所における環境教育・訓練の実施 ⑦ 外部からの苦情等の受付・対応 ⑧ 「環境への負荷の自己チェック」、「環境への取組みの自己チェック」の実施
事務局 (経営企画G)	<ol style="list-style-type: none"> ① システム運用上の事務管理 ② エコアクション21に関する諸手続き及び窓口 ③ 環境管理責任者の補佐 ④ 各部門の計画及び実施状況の把握、実績集計

(5) 環境目標、2013 年度実績、中期目標

■ 全社共通項目

基本方針／環境目標	単位	2013		評価	2014	2015	2016	
		目標	実績		中期目標			
1 地球環境問題	二酸化炭素排出量	トン-CO ₂	468	389	○	468	456	456
	電力消費に伴う CO ₂ 排出係数		0.369			0.612 ^{※1}		
	電力消費原単位	kWh/m ²	98	71.1	○	実質量（消費量）管理へ見直し		
	電力消費量	MWh	—	421	—	363	343	343
	車両燃料消費率	km/ℓ	12.4	12.4	○	12.4	12.4	12.4
	上水使用量	m ³	1,200	929.5	○	970	970	970
2 循環型社会形成	一般廃棄物処分量 （紙類以外）	kg	2,400	2,158	○	実質量（発生量）管理へ見直し		
	一般廃棄物発生量 （紙類以外）	kg	—	3,301	—	2,300	1,700	1,700
	産廃リサイクル率 〔オフィス・工場〕	%	95	96.8	○	95	95	95
	産廃リサイクル率 〔現場〕	%	90	91.7	○	90	90	90
	事務用品 グリーン購入率	%	90	98.6	○	95	95	95

※1 2015 年度以降の CO₂ 排出係数は、九州電力㈱が公表する前年度実績値に置き換える予定

■ 主な個別項目

基本方針／環境目標	単位	2013		評価	2014	2015	2016
		目標	実績		中期目標		
緑化工事提案件数	件	200	258	○	実質量（受注件数）へ見直し		
緑化工事受注件数	件	—	—	—	200	200	200
伐捨間伐材利用率	%	52	53	○	52	52	52
FSC 材利用率	%	60	15.1 ^{※2}	×	60	—	—
3 地球環境の保全	※審査人のご助言を受け、新規設定した中期目標						
		2014		2015		2016	
	化学物質の使用量削減	化学物質使用にあたっては、周辺環境への影響を最小限に留め、代替物質活用等により、極力、PRTR 制度対象物質の使用抑制に努める。					
	生物多様性の保全	林業部	森林管理事業における環境リスク低減 生物多様性チェックリストの充実・活用による効果的な配慮・対策の実施 希少植物保全 定期的なデータ収集及びマッピングによる希少種の適正管理				
		緑化部	緑化事業における環境リスク低減 生物多様性配慮の発注者への提案可能性検討				

※2 住宅販売ルートが多様化により、他社供給材を重点利用したため、利用率が低下したものの

4 社会との協調	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動レポートの積極的活用（ホームページでの情報公開、コミュニケーションツール） 清掃活動など地域貢献環境活動の展開（緑化部） 山林見学会など次世代層を中心とした体験学習の開催（林業部） 九州電力主催「九州ふるさとの森づくり」等の環境活動へ積極的に参加
5 環境管理の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「EA21 運用業務支援」（内部監査）を年間 5 箇所程度実施 環境関連法規等の特定及び遵守状況確認の確実な実施 環境活動コスト及び効果の可能な限りの定量的把握・分析・公表 九州電力主催の環境教育への積極的な参加 社内環境勉強会の実施

(6) 2013 年度実績の主な取組み、評価・対策（全社共通項目）

	実 績	主な取組み及び分析・対策
二酸化炭素排出量	<p>2011: 496 (電力: 226, 車両燃料: 241, 重油: 24, 灯油: 11) 2012: 396 (電力: 164, 車両燃料: 224, 重油: 4, 灯油: 4) 2013: 389 (電力: 155, 車両燃料: 224, 重油: 8, 灯油: 2) 目標: 468トン-CO₂以下</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当社オフィス・工場の2013年度排出量 389トン-CO₂（前年比△2%）のうち、97%を電力及び車両燃料が占めており、これらをいかに抑制するかがポイントとなります。 なお、当社が管理する 4,447ha の九州電力社有林がもたらす CO₂ 吸収・固定量は 100 万トン程度にも及びます。
電力消費原単位	<p>2011: 98 2012: 74.1 2013: 71.1 目標: 98kWh/m²以下</p>	<p>主な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 空調の適温化（冷房 28℃、暖房 19℃） 照明の間引き・配置見直し 電気機器類の不使用时の電源オフ
		<p>評価・対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 製材工場における木材乾燥機の高稼働など増加要因はあったものの、日常的な使用抑制の取組みは定着しています。 2014 年度以降の目標は、原単位から実質量（電力消費量）管理に見直し、実態を把握し易くすることで、取組みに対する分析性を高め改善を図ります。
車両燃料消費率	<p>2011: 12.4 2012: 12.6 2013: 12.4 目標: 12.4km/ℓ以上</p>	<p>主な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> エコドライブの徹底（ふんわりアクセル、渋滞回避の経路設計など） 低公害車への計画的切り替えとして、ハイブリッドカーを 1 台導入
		<p>評価・対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、長距離走行機会が減少し、前年度を下回る結果となりましたが、目標は達成しました。 燃費が悪化する夏場においても、健康管理・安全管理に留意しながら、エアコンの使用抑制等に努めた結果と考えています。 今後も、小さな工夫を積み重ねていきます。
上水使用量	<p>2011: 1,358 2012: 975 2013: 930 目標: 1,200m³以下</p>	<p>主な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> トイレ・給湯室へ使用抑制の注意喚起シールを貼付 トイレに携帯型消音機を設置 ポットの余り水を有効活用（掃除用水、植物用水）
		<p>評価・対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 11 月に本店建屋の水道管が老朽化により漏水しましたが、早急な対応により約 20ℓ（バケツの概算量）程度の被害で留めることができました。 総じて、節水活動は定着しており、今後も継続していきます。

(続き)

	実績	主な活動及び分析・対策	
一般廃棄物処分量(紙類以外)	<p>(kg)</p> <p>■一般廃棄物処分量 ■特殊要因除外値</p> <p>目標 2,400kg以下</p> <p>2011 2012 2013</p> <p>※特殊要因 林業部水産におけるマスの斃死 1,083kg 熊本営業所の引越しによる廃棄物 600kg</p>	<p>主な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 分別の徹底によるリサイクルの促進 やむを得ず発生した一般廃棄物の適正処理 	
	<p>評価・対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 2013年度よりリサイクルの定義を「最終的なりサイクル状況」に統一した結果、処分量は大幅に減少しました。 実効性を高めるため、2014年度以降は「一般廃棄物発生量」で実質量管理を行い、引き続き、発生抑制に努めます。 		
産廃リサイクル率	<p>〔オフィス・工場〕</p> <p>目標 95%以上</p> <p>2011 2012 2013</p>	<p>主な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 分別・適正処理の徹底 マニフェストの適正な運用及び適正処理確認の徹底 	
	<p>〔現場〕</p> <p>目標 90%以上</p> <p>2011 2012 2013</p>	<p>評価・対策</p> <p>〔オフィス・工場〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 発生量 470 トンに対し、455 トンがリサイクルされ、目標達成しました。 リサイクルできなかったものは、不要になった薬品、使用済農薬容器、プラスチック・金属の混合物など、すべてやむを得ない理由によるものでした。 内部監査も活用し、適正処理をサポートします。 <p>〔現場〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 発生量 3,307 トンに対し、3,032 トンがリサイクルされ目標達成しました。 リサイクルできなかった産廃の内 97%を占めたのが、松枯れ樹木の撤去工事により樹木を焼却処分したもので、運搬費用を勘案し、仕方なくサーマルリサイクル設備のない処理場へ持ち込んだことが原因です。 その他は、松枯れ対策の樹幹注入に用いた使用済薬剤容器及びその薬剤注入ガスの空缶等があり、適正処理を確認しています。 内部監査も活用し、適正処理をサポートします。 	
事務用品グリーン購入率	<p>目標 90%以上</p> <p>2011 2012 2013</p>	<p>主な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子カタログ購買システムを活用したグリーン調達 の徹底 	
	<p>評価・対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 勘違いや希望商品にグリーン商品・代替品もなかったことによる「非グリーン商品」の購入事例はありましたが、取組みは定着しているため、機会を捉えて注意喚起を徹底していきます。 		

(7) マテリアルバランス

資源投入量	エネルギー資源投入量		建設資材投入量		
	電力	421 MWh	木材	277 m ³	
	燃料 (ガソリン)	74,371 ℓ	生コンクリート	295 m ³	
		(軽油)	19,677 ℓ	建設発生土	328 m ³
		(灯油)	942 ℓ	化学物質投入量	374 kg
		(重油)	2,800 ℓ		
	水資源投入量				
上水	930 m ³				
紙資源投入量					
コピー用紙 (A4 換算)	724 万枚				
トイレットペーパー	778 ロール				

事業活動	古紙リサイクル量		産業廃棄物リサイクル量	
	4,202kg			
	一般廃棄物リサイクル量 (紙類以外)		オフィス・工場	
	オフィス・工場	1,142kg	現場	455,044kg
現場	685,192kg	現場	3,032,274kg	

環境負荷量	CO ₂ 排出量排出量		一般廃棄物処分量	
	電力	389 トン-CO ₂	オフィス・工場	2,158 kg
	車両	155 トン-CO ₂	現場	92,352 kg
	その他燃料	224 トン-CO ₂	産業廃棄物処分量	
	総排水量 ^{※3}	10 トン-CO ₂	オフィス・工場	15,085 kg
		851 m ³	現場	274,500 kg

※3 水資源投入量に対する総排水量の減少は木材乾燥機稼動時の蒸発によるもの

(8) 環境会計

環境活動の分類	計上内容	環境コスト (百万円)
CO ₂ 削減	本店建屋の照明機器交換費用 (安定器→インバーター式、蛍光管→Hf管)	1.0
公害防止	浄化槽メンテナンス費用・法定検査手数料、清掃費用、他	0.2
グリーン調達	事務用品グリーン調達費用	1.7
資源循環	一般廃棄物及び産業廃棄物のリサイクル費用	^{※4} 47.1
社内外教育	環境関連社外講習会費用、社内教育費用	2.2
EMS構築・運用	EA21運用に係る人件費、他	3.2
情報発信	ホームページ運営費用、環境活動レポートの配布に係る印刷費用	0.2
生物多様性保全	希少植物の保全活動に係る人件費	0.1
地域貢献活動	緑ふれあい運動プランター作成費用、ボランティア活動人件費、他	1.2
合計		56.9

※4 樹木伐採工事にともない発生した木くず (産業廃棄物) のリサイクル費用が約8割を占めました。

4 森林管理事業を通じた生物多様性への取組み

(1) これまでの生物多様性の取組み

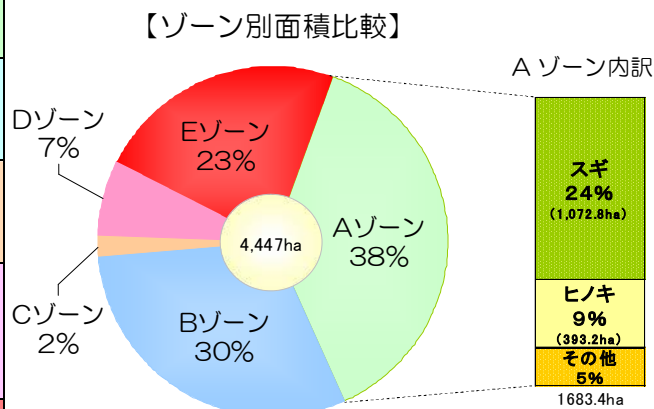
当社は、九州電力社有林の育成管理事業において、「国土の保全・水源の涵養など森林の有する多面的機能の持続的発揮」及び「林業の持続的かつ健全な発展」を目的とした「森林・林業基本法」の成立を受け、2002年より他社に先駆け、森林の持つ大切な機能に応じて区分管理を行なうゾーニング施業管理を導入しました。

2005年には、九州電力社有林の価値向上を目的に「FSC森林管理認証」を取得するなど、決められた枠組みの中で、生物多様性への配慮にも関わってまいりました。

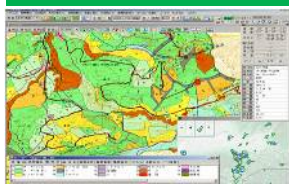
■ ゾーニングによる施業

GPS・GISを活用した測量に基づくデータ管理により効率的な施業を行い、持続可能な森林経営に取り組んでいます。

区分	目的
A	資源循環林 木材を持続的に生産することが経済的に可能なゾーン
B	公益的機能促進林 水源の涵養や他の公益的機能を維持・促進するために保全するゾーン
C	転換林 生産性(A)または保全機能(E)を果たせる樹・品種に転換するゾーン
D	風致林 レクリエーションの場としてのゾーン(ランドスケープレベルの帯・群状択伐や環境教育を実施)
E	保全林 高保護区、保護区にあたる広葉樹林



GIS 森林情報システム



施業管理を行っているデータベース



GPS 測量システム



衛星を利用した測量

■ FSC 森林管理認証

適切な森林管理が行われていることを認証する世界的な制度。「環境活動の信頼性向上」「社有林の多様な機能や効果の継続的な維持・向上」「地域社会との共生」を目的に10の原則が定められ、環境影響への配慮やモニタリングの実施などの要請事項があります。



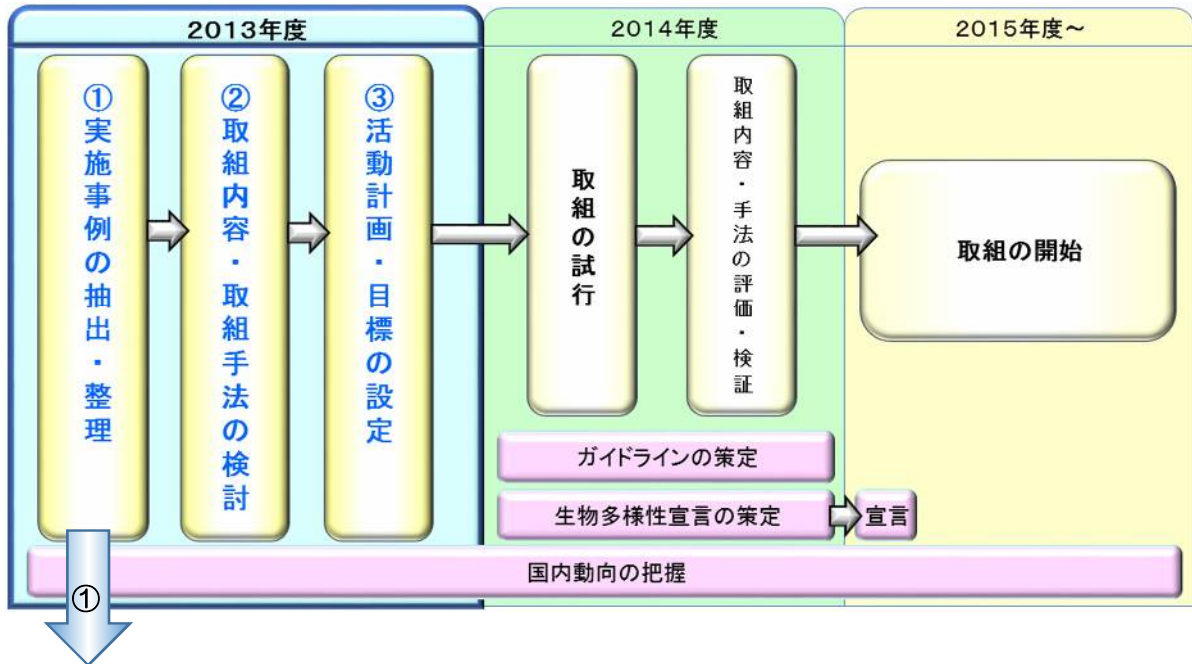
FSC 森林管理認証 10の原則

- 1 法律とFSCの原則の遵守
- 2 保有権、使用権および責務
- 3 先住民の権利
- 4 地域社会との関係と労働者の権利
- 5 森林もたらす便益
- 6 環境への影響
- 7 管理計画
- 8 モニタリングと評価
- 9 保護価値の高い森林の保存
- 10 植林

(2) 2013 年度の取組み

環境に対する社会要請とE A 2 1により培われた環境負荷低減意識の接点を求め、森林管理事業における生物多様性保全を手始めに、これまでの活動実績の把握・体系化を試みることにより、中期的なロードマップを策定しました。

■ロードマップ



① ゾーニング・FSC の枠組みの中での実施事例

希少植物のデータ蓄積

- 社有林内に生息する希少植物に対し、定期的に巡視活動を実施し、開花状況等のデータを採取
- 平治岳のミヤマキリシマをはじめ、その他希少植物の生育状況または周辺環境を把握することを目的に、定点にて年 1 回の写真撮影によりデータを採取



森林管理施業における配慮

- 広葉樹の無駄な伐採は避ける。
- 下草、広葉樹に鳥類の営巣が見られる時は周辺を含め作業に配慮する。
- 除草剤は一切使用しない。
- 作業地内に溪流がある場合、その沿線で作業は行わない。
- 油脂類は自然環境に影響が小さい製品を使用する。
- チェンソー、草刈機等の燃料補給を山林内で行う際は、河川溪流の 10m 以内、湖の 30m 以内で行わない。
但し、やむを得ず補給を行う場合は、燃料が山林内に漏れないようシートをひくなど環境に留意する。
- 新植する際は、外来種は植えない。等





② 取組内容・手法の検討・決定

これまで、森林管理事業がもたらす生態系への影響や地形の変化について、FSC 森林認証の基本的な考えに則した共通認識を基に施業を行い、完了後、チェックリストによる実施内容を確認してきました。

今後は、既存チェックリスト項目のプロセス整理により生物多様性保全視点を明確にするとともに、施業前のチェックリスト確認を重ねて行なうなど、取組みの見える化を図り、生物多様性への配慮・対策をより効果的に実行できるよう、体制整備を行いました。

施業プロセス	現場確認	計画設計	施業着手	施業完了
FSCの枠組みにおける取組み	FSCの原則に基づき、生態系への影響、地形の変化などマクロ視点で現地確認を実施	現地確認結果を基に、配慮・対策を検討し、計画・設計に反映	配慮の実行・対策の実行を念頭に施業	FSCチェックリストを用いて実行した配慮・対策の結果を確認・評価

+

希少種の有無、鳥の営巣など生物多様性に焦点を当てたチェックリストを活用し詳細な現地確認を実施

〈期待される効果〉

- チェック項目の多面化による現場確認レベルの標準化と効率的・効果的な配慮の両立
- データの明確化及び計画的なデータ収集により、希少植物保全に資する提案力向上



③ 目標の設定

①、②を受け、森林管理事業における今後の目標設定は以下のとおりとしました。

今後は、取組内容の評価・検証を繰り返しながら、ロードマップに則った工程管理、及び将来的には緑化事業への展開を進めていきます。

森林管理事業	生物多様性チェックリストの充実・活用による効果的な配慮・対策の実施
希少植物保全	定期的なデータ収集及びマッピングによる希少種の適正管理

【参 考】

■ 公園整備工事における配慮事例

2013 年度に実施した公園整備においては、低排出ガス対策及び低騒音対策型の重機を使用し、環境に配慮した施工を行うとともに、植栽に当たっては、土壌分析結果を基に、樹木に適した土壌となるようリサイクル資源（エコ炭）を使用した改良を行いました。

また、地域のシンボルでもあった園内の既存樹木（ソメイヨシノ）の伐採については、安全確保と環境配慮の両立を目指し、樹木内部診断を行うなど必要最小限の施工としました。

この提案・取組みには、発注者・地域の皆さまからも高い評価を受けました。



整備した公園の全景



エコ炭による土壌改良

5 2014 年度目標及び活動計画

基本方針／環境目標		単位	目標値	活動計画	
1 地球環境問題	二酸化炭素排出量	トン-CO ₂	468	<ul style="list-style-type: none"> 規制対象フロンの回収徹底及び代替化（空調機入替時） 空調の適温化（冷房 28℃程度、暖房 19℃程度）を徹底 パソコン・プリンタ等の不使用時の電源オフを徹底 始業前、昼休み、残業時等における不必要照明の消灯 照明の間引き及び配置見直しを実施・維持 エレベーターの使用抑制及び階段利用の促進 車両更新時における低公害車への計画的切り替えを実施 エコドライブを確実に実施 手洗場に注意喚起シールを貼り、節水を日常的に励行 	
	電力消費に伴うCO ₂ 排出係数		0.612		
	電力消費量	MWh	363		
	車両燃料消費率	km/ℓ	12.4		
	上水使用量	m ³	970		
2 循環型社会形成	一般廃棄物発生量（紙類以外）	kg	2,300	<ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物発生抑制及び分別徹底によるリサイクル促進 古紙リサイクル率の維持・向上 産廃の分別徹底によるリサイクル率の向上及び適正処理 産廃マニフェストの適切な運用及び適正処理確認の徹底 機密文書、使用済蛍光管及び乾電池のリサイクルを実施 社内イントラ活用、裏面利用等によるペーパーレス推進 電子カタログ購買システムによる事務用品グリーン調達 事務用品以外も極力環境ラベル認定等の物品調達を実施 	
	産廃リサイクル率〔オフィス・工場〕	%	95		
	産廃リサイクル率〔現場〕	%	90		
	事務用品グリーン購入率	%	95		
3 地域環境の保全	緑化工事受注件数	件	200	<ul style="list-style-type: none"> 緑化工事受注獲得により緑豊かな社会に貢献 間伐材利用率の向上により資源を有効に活用 F S C 認証材の積極的活用により CO₂ 固定に貢献 	
	伐捨間伐材利用率	%	52		
	FSC 材利用率	%	60		
	化学物質の使用量削減	化学物質の使用にあたっては、周辺環境への影響を最小限に留め、代替物質の活用などにより、極力、PRTR 制度対象物質の使用抑制に努める。		<ul style="list-style-type: none"> 自社で所有・使用農薬の使用量把握及び適切管理 PRTR 物質の協力会社も含めた把握及び代替化による使用の抑制 環境上の事故・緊急事態の想定訓練実施及び有効性確認 	
	生物多様性の保全	林業部	生物多様性チェックリストの充実・活用による効果的な配慮・対策の実施		<ul style="list-style-type: none"> 目標の実現に向けて、2013 年度に検討した取組内容・手法の試行を繰り返し、評価・検証を実施 生物多様性への取組みに関する社内ガイドラインの作成 生物多様性宣言に織り込む取組内容の精査及び宣言策定 また、緑化事業への展開に向け取組内容を検討
		緑化部	定期的なデータ収集及びマッピングによる希少種の適正管理		
〔参考〕2015 年度以降の取組み 生物多様性配慮事例の蓄積・集約及び発注者への提案可能性の検討・展開					
4 社会との協調	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動レポートの積極的活用（ホームページでの情報公開、コミュニケーションツール） 清掃活動など地域貢献環境活動の展開（緑化部） 山林見学会など次是代走の体験学習の開催（林業部） 九州電力主催「九州ふるさと森づくり」等の環境活動へ積極的に参加 				
5 環境管理の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「EA21 運用業務支援」を年間 5 箇所程度実施 環境関連法規等の特定及び遵守状況確認の確実な実施 環境活動コスト及び効果の可能な限りの定量的把握・分析・公表 九州電力主催の環境教育への積極的な参加 社内環境勉強会の実施 				

6 環境関連法規等の遵守状況

当社、事業活動に関する環境関連法令等の遵守状況を確認した結果、違反等はありませんでした。また、関係機関などからの違反等の指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

該当する主な法規制	主な遵守内容
フロン回収破壊法	<ul style="list-style-type: none"> フロン類の大气への放出禁止 フロンの適正・確実な回収及び排出抑制の適正措置の実施
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> 特定家電用機器の長期間使用に努める。 廃棄する場合、再商品化等を行う者に適切に引渡し、料金を支払う。
廃棄物処理法	<ul style="list-style-type: none"> 保管基準、委託基準、処理基準の遵守 マニフェストの交付・管理及び行政への報告 下請業者による運搬
循環型社会形成推進基本法	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物発生抑制の措置
建設リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> 再資源化等の実施状況に関する記録・保存 特定建設資材廃棄物の再資源化等を完了した時の工事発注者への書面報告
資源有効利用促進法	<ul style="list-style-type: none"> 再生資源及び再生部品の利用 事業に係る製品の長期利用及び再生資源の利用促進
グリーン購入法	<ul style="list-style-type: none"> 物品購入における可能な限りの環境物品の購入
包装容器リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> 再使用可能な容器包装の使用 容器包装の抑制・再商品化
騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> 特定騒音発生施設の設置 指定地域内での特定建設作業を伴う建設工事施工時の届出 規制基準の遵守
振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> 振動発生施設の設置・変更時の届出 振動防止方法の届出 規制基準の遵守
浄化槽法	<ul style="list-style-type: none"> 浄化槽設備の設置・変更の届出、着手日遵守 浄化槽管理者の選任 使用開始報告書の提出 未処理水の放流禁止 指定検査機関による水質検査の実施
建築基準法	<ul style="list-style-type: none"> 敷地の衛生及び安全の遵守 国土交通大臣の定める建築材料の使用
消防法	<ul style="list-style-type: none"> 住宅用防災機器、消防用設備の設置と維持 消防用設備の届出・点検・報告
PRTR 法	<ul style="list-style-type: none"> 排出量・移動量の把握・届出
森林法	<ul style="list-style-type: none"> 主伐・間伐に関わる行政の許可・通知・届出
自然公園法	<ul style="list-style-type: none"> 特定地域内における主伐・間伐時の許可申請書提出
生物多様性基本法	<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性への影響把握・配慮・低減・持続可能な利用

7 代表者による全体評価と見直しの結果

- 環境活動に対する取組みについては、概ね年度目標を達成し高い水準の維持が確認されています。中でも、一人ひとりが新たな改善領域を見出す努力を続けていること、また、他者の気付きが水平展開されていることは大いに評価しています。
- 事業意義の再確認が必要な今だからこそ、E A 2 1 の取組みを契機に培われた「全従業員で改善するマインド」を、森林管理事業・緑化事業自体が内包する「生物多様性への取組み」において貫流し、社会へ提供する環境価値を高めていくことが必要となります。
- 次年度においては、当社の強みである「生物多様性への取組み」の方向性を具現化するためにも、「ガイドライン策定及び生物多様性宣言」を確実に実施してください。
- これに対しては、全社一体となった取組みを支える者として、やりがい・働きがいを感じられる企業風土づくりで応えていきます。
- なお、化学物質の使用抑制については、上位目標である基本方針に織り込み、取組みの整合性を図ってください。

代表取締役社長 長 宣 也

8 その他環境関連活動

(1) オフィスにおける日常的な取組み

省エネ、省資源など環境負荷低減活動においては、定着が進み、各所独自の取組み・取組みの水平展開も確認されています。

2013年度の特筆事例としては、本店建屋（5階建て）における蛍光灯安定器をインバーター式（110台）に、蛍光管をHf管（220本）に変更しました。

また、熊本営業所ではトイレの節水対策として、携帯型消音機を設置しました。



(2) 緑を通じた地域社会への貢献

電力設備の緑化工事、都市公園整備工事、高速道路緑化工事、緑地の維持管理など、「緑」を通じて地域社会に貢献しています。



住宅展示場造成工事 大村メガソーラー 芝の吹き付け

(3) 自然環境の保全

くじゅう登山道巡視

環境省からの業務委託で、月に1回のペースで片道約4kmのくじゅう登山道の巡視・修復作業を行うとともに、根が露出したミヤマキリシマ（国の天然記念物）などを登山道外へ移植するなど、希少種保全も併せて実施しています。



平治岳除伐活動

地元の保護団体が主催するミヤマキリシマの保護活動に毎年参加しています。ミヤマキリシマは、ノリウツギなどの木々の繁茂に侵されて、年々枯死・衰退しています。


（2013年度：合計3回、のべ8名が参加）



(4) 地域に根ざした環境活動の展開

環境ボランティア活動	<p>緑ふれあい運動の実施 当社創立 60 周年を記念して、2009 年から全社一斉に、養護福祉施設等へフラワーボックスを寄贈しています。 (2013 年度：26 箇所へ寄贈)</p>		
	<p>小規模集落応援隊活動への参画 高齢化率が約 8 割を超える由布市奥江地区に対しては、官民一体で活動する当応援隊の一員として、農業に欠かせない水路の浚渫作業を実施しました。また、作業後の懇親を通し地域社会とのコミュニケーション向上が図れました。(2013 年度：4 名参加)</p>		
	<p>清掃活動の実施・参加 地域貢献活動の一環として、事務所周辺の清掃活動、当社が指定管理者として管理する公共施設周辺の清掃活動、社外主催の清掃活動へ積極的に参加しています。 (2013 年度：合計 29 回、のべ 85 名参加)</p>		
環境コミュニケーション活動	<p>森林見学会の開催 当社では、森の大切さを伝えるため、次世代層や環境経営に関心の高い企業の方などを対象に、毎年、森林見学会を開催しています。 (2013 年度：8 団体 611 名参加)</p>		
	<p>出前授業の開催 小学校など次世代層を対象に出前授業を行い、森の役割や大切さを伝えています。授業の後は、実際に木に触れてもらうため丸太切り体験なども行っています。 (2013 年度：279 名を対象に開催)</p>		
	<p>環境コミュニケーションイベント開催 当社が指定管理者として管理している福岡県や福岡市の公園・農園では収穫体験、自然観察会など、自然とふれ合うイベントを多数開催しています。</p>		

(5) 社内環境教育の展開

環境管理の推進	<p>EA21 運用業務支援（内部監査）の実施 環境活動の定着化とシステムの改善を図るため、事務局が各所へ出向き、運用状況の確認及びフォローを行っています。(年間 5 箇所実施) 2013 年度は、「環境活動レポート大賞・九州」表彰式において、内部監査の有効性をテーマとしたパネルディスカッションにおいて、当社がパネラーに選出され、当該支援の概要・実施意義・効果等について、多くの気付きを得る好機となりました。</p>	
	<p>社内スクールの開催 環境保全に関わる政策動向や関連技術を学び、新たな事業展開につながる業務改善活動展開のため年 6 回の社内スクールを開催しています。</p>	